杉並区区制施行 80 周年記念パネル展

「すぎなみのあゆみと人々のくらし」

今年 10 月 1 日、杉並区は誕生から 80 周年を迎えます。この間、杉並区政や区民のくらしも時代の大きな流れの中で、形を変えてきました。昭和 7 年の当時、15 万に及ばなかった人口も、現在は 54 万人に増加しました。また、世帯数も 10 倍になるなど、大きく姿を変え、さらに発展し続けています。

このパネル展では、杉並区の誕生からこれまでを「区政のあゆみ」と「まちのようすと人々のくらし」という観点から、古い写真や広報紙などで振り返ります。杉並を 80 年間を駆け足でご紹介することとなりますが、懐かしい風景や出来事、そしてご自身の誕生年などの広報紙をめくりながら、お楽しみいただけたらと思います。

平成 24 年 9 月　杉並区広報課

区政のあゆみ

現在、区が発行している「広報すぎなみ」のはじまりは「杉並区公報」で、昭和 10 年 4 月 15 日に創刊されました。戦時中は紙不足から発行が中止されていましたが、わら半紙 1 枚の「杉並区政ニュース」が、昭和 23 年 12 月 1 日に復活しました。その後、昭和 26 年 4 月 25 日号からは「杉並区廣報」、昭和 27 年 7 月 1 日号から「杉並区広報」に改称されました。さらに、昭和 58 年 10 月 5 日号から、「広報すぎなみ」に改称され、今日に至っています。

まちのようすと人々のくらし

東京 23 区の西端に位置する杉並区は、江戸から大正時代までは野菜や雑穀を中心とした農村地でした。関東大震災を境に、人口が急増し、戦後の高度成長とともに、住宅都市として発展してきました。

この 80 年間には、歴史に残る太平洋戦争や交通機関の発展などがあり、街並みや人々のくらしにも大きな影響を与えました。

区政のあゆみ①

【昭和7年10月～昭和47年】

●昭和7年10月1日に、杉並町・和田堀町・井荻町・高井戸町が合併し、杉並区が誕生しました。

◎当時の杉並区（昭和7年10月）
- 人口：14万6,560人
- 世帯数：3万1,583世帯
- 予算額：49万7,779円（昭和8年度）

昭和7年	10月	・杉並区誕生
昭和8年	8月	・井の頭線開通
昭和9年	―	・農家戸数全市で7位：1,088戸
	11月	・東京市杉並職業紹介所設置
昭和10年	4月	・杉並区公報創刊
		・杉並高等家政女学校開校
	7月	・杉並第四小学校に区内初のプール完成
	10月	・井荻町土地区画整理組合事業完了
昭和11年	1月	・商工青年学校で飛行機製作
昭和12年	4月	・水道道路（渋谷−吉祥寺間）開通
	11月	・杉並健康相談所開所
昭和13年	1月	・宮城遥拝の実施
昭和14年	9月	・区庁舎落成
昭和15年	5月	・経済課新設（統制経済事務）
昭和16年	―	・商店数：4,409、工場数：136
	4月	・小学校を国民学校に改称
昭和17年	―	・区に親切課・防衛課
	3月	・都が清掃事務所を阿佐ヶ谷に開設
	10月	**【区制施行10周年】**
昭和18年	7月	・東京府と東京市が合併し東京都になる
昭和19年	2月	・富津学園開設
	8月	・長野県、宮城県に集団疎開
	11月	・本区初の空襲
昭和20年	3月	・戦局緊迫化し授業中止
	5月	・本区最大の空襲を受ける
	8月	・太平洋戦争が終わる
		・米価10kg：3円77銭
	11月	・集団疎開帰校
	12月	・農地改革始まる
昭和21年	―	・方面委員は民生委員に移行
	12月	・国民学校26校、青年学校6校
昭和22年	4月	・初代公選区長【新居格区長を選出】
		・新制中学校20校決定
	6月	・町会を廃止して出張所を新設
昭和23年	―	・道路舗装工事始まる
昭和24年	5月	・第1回杉並子ども区議会開催
		・天皇・皇后両陛下光明寮視察
	11月	・公設浴場の今川湯が民営になる
昭和25年	―	・区に商工相談所新設
	3月	・今井氏が済美学園を区に寄贈
	9月	・小学校の完全給食実施
	11月	・区営競馬で戦災復興
		・区青年問題協議会発足
昭和26年	3月	・済美教育研究所発足
	7月	・農地委員会が農業委員会になる
	9月	・結婚相談所開設
	10月	・教育委員会発足
	11月	・第1回総合文化祭
昭和27年	5月	・杉並図書館が単独の建物として開館
	7月	・寄留制度から住民登録法に移行
	10月	**【区制施行20周年】**
		・区の紋章が決まる
昭和28年	―	・土木事業に統合的な年次計画を策定
	10月	・区営建売住宅公募
	11月	・都電複線完成
		・公民館開館
昭和29年	―	・区立学校校舎の鉄筋化
	5月	・原水爆禁止で杉並協議会が発会
	8月	・第1回阿佐ヶ谷七夕祭開催

●杉並区の誕生（お祝いパレード）

●「杉並区公報」第1号

●区庁舎（昭和14年9月落成）

●区庁舎（昭和38年7月落成）

●区制施行40周年記念式典

昭和30年	―	・特殊学級整備が重点施策になる
	8月	・力とハエをなくす区民運動
		・第1回美術家展
	11月	・米価10kg：765円
昭和31年	6月	・区長選任制移行【高木敏雄区長就任】
昭和32年	―	・中学校の屋内運動場建設が始まる
	7月	・杉並公会堂開館
	8月	・第1回高円寺阿波おどり開催
昭和33年	―	・二部授業解消
	9月	・狩野川台風で区に災害救助法適用（床上浸水：4,110戸）
	10月	・久我山会館開館
昭和34年	11月	・国民年金スタート
	12月	・国民健康保険事業スタート
昭和35年	―	・小学校プール建設
昭和36年	4月	・街路灯5ヵ年計画スタート
昭和37年	1月	・地下鉄丸ノ内線開通
	5月	・区民寮「すぎなみ荘」開設
		・区長選任で議場に警官隊導入
	10月	**【区制施行30周年】**
	11月	・交通安全協議会が発足
昭和38年	7月	・区庁舎新築落成
	9月	・住居表示始まる
	11月	・初の敬老会館上荻窪に開館
	12月	・都電杉並線廃止
		・環状七号線開通
昭和39年	7月	・学童保育始まる
	11月	・消費者相談の窓口開設
昭和40年	3月	・交通安全都市宣言
	4月	・大幅な事務移管で部制施行
		・土木事業6ヵ年計画スタート
		・中学校で完全給食実施
	12月	・区に電子計算機導入
昭和41年	4月	・行政施設建設5ヵ年計画
	6月	・台風4号で災害救助法適用
	11月	・高井戸に清掃工場の案発表
	12月	・遊び場対策本部設置
昭和42年	4月	・区立学校で校庭開放
	12月	・杉並会館開館
昭和43年	4月	・杉並区長期基本計画審議会が区長へ答申
	―	・区の将来像は「緑の豊かな福祉文化都市」
	10月	・交通災害共済制度事業がスタート
昭和44年	4月	・科学教育センター開館
		・住民基本台帳制度が発足
		・中央線4駅高架工事（荻窪−三鷹間）完了
	11月	・住居表示完了
昭和45年	4月	・初の区立幼稚園が下高井戸に開園
	6月	・区政モニター制度発足
	7月	・東京立正高校で光化学スモッグ被害発生
	12月	・児童福祉センター開館
		・菅平学園開園
昭和46年	2月	・緑化対策で苗木を配布
	12月	・地域地区改正で審議会が発足
昭和47年	4月	・建築紛争相談所を開設
		・公害監視委員会が発足
		・杉並児童交通公園を開設
	9月	・杉並区緑化計画審議会が発足
	10月	**【区制施行40周年】**
	11月	・宮前図書館開館

区政のあゆみ②

【昭和48年～昭和63年】

●昭和50年4月の地方自治法改正により、区長公選制度の復活や、都からの大幅な事務移管（保健所事務など）があり、自治体としての権限が飛躍的に拡大しました。

◎当時の杉並区（昭和50年4月）
- 人口：53万1,374人
- 世帯数：22万3,804世帯
- 予算額：339億4,094万5,000円（昭和50年度一般会計）

昭和48年 3月 ・消火器を主要道路に設置
5月 ・障害児も保育する荻窪南保育園開園
7月 ・老人医療費助成を65歳以上に引き下げ
・休日急病テレホンサービス開始
9月 ・緑の条例制定、区のシンボルツリー決定

昭和49年 5月 ・魚の産直を実施
・浜田山区民農園開園
9月 ・南伊豆健康学園開園
11月 ・児童交通公園にD51蒸気機関車を設置
・杉並清掃工場用地の和解調印

昭和50年 1月 ・毎月1回、高齢者へ公衆浴場を無料開放
・食肉の産直実施
4月 ・都から区へ大幅な事務事業移管あり
・区長公選復活【菊池喜一郎区長を選出】
9月 ・杉並区行財政緊急対策本部を設置
10月 ・印鑑登録・証明制度を変更

昭和51年 3月 ・西保健所にガン検診機を導入
4月 ・松渓公園開園
5月 ・中央自動車道（高井戸～調布間）開通

昭和52年 1月 ・消火用三角バケツを区内全世帯に配布
4月 ・移動図書館「たびびとくん」運行開始
7月 ・上井草地区居住環境整備がスタート
一 ・第2回緑化基本調査
【杉並区の緑被率：21.56%】
12月 ・杉並区基本構想を議決
・歯科休日急病診療を開始

昭和53年 4月 ・久我山小学校開校
9月 ・個人情報の保護に関する条例を議決
10月 ・休日の夜間急病診療所開設

昭和54年 3月 ・荻窪地域区民センター開設
4月 ・区立済美養護学校開校
・あき地の適正化に関する指導要綱を制定
・区議・区長選挙【菊池喜一郎区長再選】
7月 ・国際児童年にあたり区の基本方針を制定
・杉並区震災対策緊急整備計画を策定
・荻窪駅北口再開発の工事開始
10月 ・都から区へ上井草総合運動場の移管あり
12月 ・区教育委員会の組織改正

昭和55年 3月 ・都から区へ杉並福祉作業所、杉並生活実習所、杉並授産場を移管
・地域地区の指定見直し素案の作成
4月 ・弓ヶ浜学園開園
10月 ・不燃化促進計画推進協議会が発足

昭和56年 2月 ・和泉保健相談所開設
3月 ・中杉通り開通式
4月 ・衛生試験所開設
6月 ・済美養護学校に障害幼児教育開設
7月 ・杉並区省エネルギー・省資源区民懇談会が発足
8月 ・阿佐谷けやき公園開園、プール開設
9月 ・蚕糸跡地周辺まちづくり協議会が発足
・荻窪駅北口再開発ビル完成
10月 ・大田黒公園開園
・荻窪サービスコーナー開設
・杉並区自転車問題協議会が発足
・第三次行財政実施計画を策定
・気象研跡地周辺地区懇談会が発足
12月 ・区職員の給与等の実態の公表開始

●南伊豆健康学園開園

●区制施行50周年記念式典

●杉並区歌・杉並音頭を制定

●「広報すぎなみ」第1,000号

●「湯河原すぎなみ荘」新装オープン

昭和57年 4月 ・文化財保護条例を制定
8月 ・杉並区歌・杉並音頭を制定
10月 **【区制施行50周年】**
・中央図書館開館
11月 ・区登録・指定文化財を決定

昭和58年 1月 ・杉並清掃工場が本稼動
3月 ・区役所第二分庁舎完成
・第3回緑化基本調査の最終結果を報告
【杉並区の緑被率：20.84%】
4月 ・高井戸地域区民センター、老人福祉センター、高井戸温水プール開設
・梅里区民集会所開設
・区議・区長選挙【松田良吉区長を選出】
10月 ・不燃化促進助成制度スタート
・杉並区震災対策推進計画を策定
・杉並区雨水流出抑制対策推進計画を策定

昭和59年 3月 ・杉並区緑化基本計画、同推進計画を策定
・ワンルームマンション建築指導要綱を施行
4月 ・デイ・ホーム事業がスタート
5月 「湯河原すぎなみ荘」新装オープン
9月 ・上高井戸区民集会所開設
・自転車条例を制定
12月 ・勤労福祉会館・西荻地域区民センター開設

昭和60年 3月 ・馬橋公園開園
4月 ・四宮区民集会所開設
5月 ・上井草保健相談所開設
・広報紙1,000号を発行
6月 ・阿佐谷地域区民センター開設
・防災無線ジャックが起こる
・「大学公開講座」スタート
8月 ・行財政改善計画を策定
9月 ・成田図書館開館
11月 ・雨水流出抑制対策推進計画を策定

昭和61年 3月 ・住民基本台帳オンラインシステム稼動
4月 ・杉並第十小学校の移転開校
・「いじめ電話相談」開設
6月 ・勤労者共済会発足
8月 ・蚕糸の森公園開園
11月 ・家庭訪問歯科診療がスタート
・東原児童館開館
・区議会議員定数削減案（56→52）可決

昭和62年 1月 ・環状七号線沿道整備計画スタート
4月 ・区長・区議選挙【松田良吉区長再選】
・永福南小学校開校
6月 ・情報公開・個人情報保護制度スタート
7月 ・蚕糸の森公園にデイキャンプ場を設置

昭和63年 2月 ・用途地域の見直し原案を都に提出
3月 ・平和都市宣言
4月 ・塚山公園開園
5月 ・あけぼの作業所開設
6月 ・第1回「知る区ロード探検隊」が大好評
7月 ・西荻南区民集会所、児童館開設
9月 ・和田堀公園にカワセミ再現
・杉並区基本構想を議決
12月 ・杉並区長期計画・実施計画を策定

区政のあゆみ③

【平成元年～平成24年】

●平成12年4月1日の地方自治法改正により杉並区は「基礎自治体」として新たに歩み始めました。

◎現在の杉並区（平成24年8月1日）
- 人口：54万0,180人
- 世帯数：30万0,146世帯
- 予算額：1,546億5,900万円（平成24年度一般会計）

平成元年	5月	・郷土博物館開館
	6月	・セシオン杉並開館
	7月	・風連町と交流自治体調印される
	8月	・吾妻町と友好自治体調印される
平成2年	2月	・区役所新庁舎西棟完成
	3月	・平和都市宣言記念像「ジーンズ」建立
		・まちづくり基本方針策定
	5月	・西荻図書館開館
		・オーストラリアウイロビー市と友好都市の調印される
平成3年	2月	・富士学園改装オープン
	4月	・区議・区長選挙【松田良吉区長三選】
		・公民館跡地に「オーロラ」建立
	6月	・荻窪体育館開館
	7月	・杉並区国際交流協会設立
	8月	・永福和泉地域区民センター開設
	10月	・さんあい公社事業開始
	12月	・韓国ソウル特別市瑞草区と友好都市
		・下高井戸運動場改築オープン
平成4年	2月	・区役所新庁舎中棟、地下駐車場完成
	3月	・コミュニケーションマーク制定
	4月	・（財）杉並区勤労者福祉協会設立
	10月	**【区制施行60周年】**
平成5年	2月	・阿佐谷図書館開館
	3月	・区役所新庁舎完成
	10月	・（財）杉並区スポーツ振興財団設立
		・（財）杉並区国際交流協会設立
		・杉並区長期計画を改定、実施計画を策定
	11月	・南荻窪図書館開館
平成6年	4月	・杉並区リサイクル協会設立
	7月	・「すぎなみ自然村（群馬県吾妻町）」開設
平成7年	4月	・区議・区長選挙【本橋保正区長を選出】
	5月	・郷土博物館「西田小学校郷土資料展示室」オープン
	10月	・杉並区実施計画を策定
平成8年	1月	・行政手続条例を施行
	2月	・杉並区環境基本計画を策定
	4月	・井草森公園開園
	5月	・職員研修所「秋川荘」改築オープン
平成9年	4月	・こども発達センター開設
	5月	・下井草図書館開館
	9月	・ゆう杉並開館
	10月	・すぎなみフェスティバル'97開催
		・杉並区実施計画を策定
	12月	・男女共同参画都市宣言
平成10年	1月	・生涯学習振興室「杉九ゆうゆうハウス」開設
	2月	・上井草スポーツセンター開館
	5月	・高井戸図書館開館
	9月	・杉並区文化振興協会設立
	10月	・（財）杉並区障害者雇用支援事業団設立
平成11年	3月	・地域振興券交付
	4月	・杉並保健所、荻窪保健センター、保健医療センターの複合施設開館
		・区議・区長選挙【山田宏区長を選出】
	5月	・地域生活支援センター「オブリガード」開設
	10月	・介護保険、要介護認定申請開始
	11月	・平成10年度末の「貸借対照表」作成

●郷土博物館の古民家

●区役所新庁舎

●井草森公園

●南北バス「すぎ丸」

●アニメキャラクター「なみすけ」

平成12年	1月	・杉並区公式ホームページ稼動
	3月	・事務事業評価制度を開始
	4月	・特別区制度改革、地方分権改革の実施
		・介護保険制度開始
		・杉並区議会情報公開条例を制定
	6月	・ダイオキシン条例を制定
	9月	・杉並区21世紀ビジョンを策定
	10月	・杉並区基本計画、実施計画を策定
		・スマートすぎなみ計画を策定
	11月	・南北バス「すぎ丸」運行開始
		・中学校対抗駅伝大会開催
平成13年	4月	・組織再編（5部＋教育委員会）
		・アニメーションフェスティバル開催
	10月	・環境博覧会すぎなみ2001開催
平成14年	4月	・「めざせ五つ星の区役所」運動開始
	6月	・杉並区初の女性議長誕生
	10月	**【区制施行70周年】**
	11月	・自治基本条例を制定
	12月	・小柴昌俊さんがノーベル物理学賞受賞
平成15年	1月	・小柴昌俊さんを名誉区民（第1号）に認定
	4月	・アニメ資料館開館（杉並会館内）
		・区議・区長選挙【山田宏区長再選】
	7月	・荻窪・高井戸駅前事務所開設
	8月	・安全パトロール隊発足
	9月	・公共施設予約システム「さざんかねっと」開始
平成16年	4月	・複合施設「あんさんぶる荻窪」開設
	10月	・南北バスすぎ丸「さくら路線」開通
		・柏の宮公園開園
	11月	・北塩原村と「まるごと保養地協定」締結
平成17年	3月	・杉並アニメーションミュージアム開館
		・ノーベル賞受賞者小柴昌俊さんの提案による「科学と自然の散歩みち」が完成
	7月	「杉並師範館」設立
	9月	・集中豪雨による水害発生【床上・床下浸水など2,300戸以上】
	11月	・方南図書館開館
平成18年	2月	・杉並区コールセンター開設
	4月	・犯罪被害者支援制度開始（全国初）
		・「すぎなみ地域大学」開校
		・杉並区成年後見センター開設
	6月	・杉並公会堂改装完了しオープン
	9月	・アニメキャラクター「なみすけ」選定
平成19年	4月	・天沼弁天池公園、郷土博物館分館開設
		・区議・区長選挙【山田宏区長三選】
	6月	・「杉並子育て応援券」事業開始
	11月	・区制施行75周年記念事業「相馬野馬追」
平成20年	4月	・区内初の統合新校「天沼小学校」開校
		・後期高齢者医療制度がスタート
	5月	・本庁舎南側壁面に緑のカーテン設置
	12月	・南北バスすぎ丸「かえで路線」開通
平成21年	5月	・杉並芸術会館「座・高円寺」開館
		・角川庭園・幻戯山房「詩歌館」開園
		・青梅市と交流協定を締結
平成22年	7月	・区長選挙【田中良区長を選出】
平成23年	3月	・「東日本大震災」発生、被災地への支援物資発送、職員派遣実施
	5月	・自治体スクラム支援会議開催
平成24年	10月	**【区制施行80周年】**

区政のあゆみ④
【歴代区長一覧】

初代区長は、東京市長により任命されました。公選制度は昭和22年4月に導入されたものの、都制の改正によって、27年の区長選挙以降は中断されていました。昭和50年の地方自治法の改正により、区長公選制度が復活しました。

代	氏名	就任期間	都知事		内閣総理大臣＊()は代を表す
初代	魚井　繁太郎	昭和7年10月1日～ 昭和9年6月30日			齋藤實(30)
2代	増田　　穆	昭和9年6月30日～ 昭和13年5月8日			岡田啓介(31)、廣田弘毅(32)、林銑十郎(33)、近衛文麿(34)
3代	広田　　傳蔵	昭和13年5月9日～ 昭和14年6月19日			平沼騏一郎(35)
4代	田中　直次	昭和14年6月20日～ 昭和18年6月30日			阿部信行(36)、近衛文麿(38･39)、東條英機(40)
5代	山根　幸八	昭和18年7月1日～ 昭和20年12月23日			小磯國昭(41)、鈴木貫太郎(42)、東久邇宮稔彦王(43)、幣原喜重郎(44)
6代	高橋　　寛	昭和20年12月24日～ 昭和21年11月22日			吉田茂(45)
7代	新居　　格	昭和22年4月12日～ 昭和23年4月9日	初代	安井　誠一郎	片山哲(46)、芦田均(47)
8代	高木　敏雄	昭和23年5月24日～ 昭和32年10月28日			吉田茂(48～51)、鳩山一郎(52～54)、石橋湛山(55)、岸信介(56)
9代	加藤　豊三	昭和32年12月27日～ 昭和36年12月26日	2代	東　龍太郎	岸信介(57)、池田勇人(58･59)
10代	菊池　喜一郎	昭和37年5月17日～ 昭和58年4月26日	3代	美濃部　亮吉	池田勇人(60)、佐藤栄作(61～63)、田中角榮(64･65)、三木武夫(66)、福田赳夫(67)、大平正芳(68･69)、鈴木善幸(70)、中曽根康弘(71)
			4代	鈴木　俊一	
11代	松田　良吉	昭和58年4月27日～ 平成7年4月26日	5代	青島　幸男	中曽根康弘(72･73)、竹下登(74)、宇野宗佑(75)、海部俊樹(76･77)、宮澤喜一(78)、細川護熙(79)、羽田孜(80)、村山富市(81)
12代	本橋　保正	平成7年4月27日～ 平成11年4月26日	6代	石原　慎太郎	橋本龍太郎(82･83)、小渕恵三(84)
13代	山田　　宏	平成11年4月27日～ 平成22年5月31日			森喜朗(85)、小泉純一郎(87～89)、安部晋三(90)、福田康夫(91)、麻生太郎(92)、鳩山由紀夫(93)、菅直人(94)
14代	田中　　良	平成22年7月12日～			野田佳彦(95)

まちのようすと人々のくらし①

区内を東西に貫く甲州街道や青梅街道、五日市街道は江戸時代からの主要な道路です。また、明治時代に現在のJR中央線が甲武鉄道として開通したほか、大正期以降私鉄各線の整備が進み、杉並区の発展に寄与しました。

昭和27年　西荻窪駅北口

明治37年
甲武鉄道
（現：中央線）

昭和25年　都電（新宿ー荻窪間）

交通の発達

昭和20年代後半、わが国は早くも戦前の経済水準を取り戻し、昭和30年代には、「もはや戦後ではない」と経済白書の中で宣言されました。神武景気（31～32年）、なべ底不況（32～33年）、岩戸景気（34～35年）、証券不況（36年）、鉄鋼不況（37年）、東京オリンピックの公共事業による景気回復（38年）といった景気の波動を描きながら、経済大国への基盤を確立していきました。

経済の発展とともに、20年代以降人口が急増し、都心へ通勤するサラリーマン層のための住宅都市として開発が進んでいきました。昭和30年には、区内の三分の一が農地でしたが、45年には農地は一割まで減少し、宅地化の波は区内の景観を一変させました。

都心への通勤が増えたことによって、交通渋滞や通勤ラッシュ、さらに駅前の放置自転車などが大きな社会問題となっていきました。

昭和25年　トレーラーバス

昭和25年　中央線(軍用)

昭和25年　西武新宿線（井荻ー下井草間）

昭和28年　下井草駅

昭和30年　富士見丘駅周辺

昭和36年　通勤ラッシュの阿佐ヶ谷駅ホーム

昭和37年　阿佐ヶ谷駅渡線橋

昭和37年1月、営団地下鉄丸ノ内線（荻窪線）が開通すると、38年12月1日、長年親しまれてきた都電は、青梅街道上から姿を消しました。

地下鉄は、杉並と都心を30分程度で結ぶことから、通勤客を中心に利用者が増大しました。37年には区内五駅の一日平均乗降客数が73,000人ほどだったのが、40年には141,000人あまりと、ほぼ倍増しています。

昭和38年　都電杉並線廃止記念電車

昭和26年　荻窪陸橋工事中（阿佐谷方面から）

昭和42年　五日市街道の交通渋滞（松ノ木付近）

昭和41年　環状八号線と高井戸駅

昭和52年　放置自転車回収（荻窪駅南口）

【JR最低運賃等の推移】

	JR最低運賃	都バス運賃	タクシー基本料金
昭和20年（1945）	0.10円	（区間/円）	100（2km/円）
昭和21年（1946）	0.2		
昭和22年（1947）	0.50→1.00		
昭和23年（1948）	5		
昭和26年（1951）	10		
昭和27年（1952）			80
昭和28年（1953）	20		
昭和30年（1955）		15	
昭和39年（1964）			100
昭和40年（1965）		20	
昭和44年（1969）	30		
昭和45年（1970）			130
昭和46年（1971）		30	
昭和48年（1973）			170
昭和49年（1974）			220→280
昭和50年（1975）		70	
昭和51年（1976）	60		
昭和52年（1977）		90	330
昭和53年（1978）	80	110	
昭和54年（1979）	100		380
昭和56年（1981）	110	130	430
昭和57年（1982）	120	140	
昭和59年（1984）	130	150	470
昭和60年（1985）	140	160	
平成7年（1995）		200	650
平成19年（2007）			710

タクシーは大正13年、大阪で営業が始まり、同15年には東京にも登場しました。昭和初期までは、市内特定地域内を1円均一で走っていたため、「円タク」の名で呼ばれていました。メーター制が導入された後も、この通称が使われていました。

昭和20年、新円はそれまでの100倍となったため、タクシーの初乗りも100円となりました。

昭和24年9月9日発行の「杉並新聞」では、中央線の今昔の記事が掲載されています。記事によると、明治22年新宿と立川間で甲武線として開通し、明治24年に荻窪駅が開設、その後高円寺、阿佐ヶ谷、西荻窪駅の3駅が、大正11年7月に同時に開設されたこと。駅の開設によって、沿線一帯の開発が促進されたことが記されています。

杉並新聞

THE SUGINAMI SIMBUN

学校建築に大穴か

百万圓？の行方

一部職員胡に乗り出す

中央線の今昔

大波乱の杉並信組

組合長は役員総辞職か

区本会議十四日開く

都区の言分を聞く会

10・11日議員懇談会主催で

メガネ

阿佐ヶ谷南通

日名出眼鏡店

昭和56年　中杉通り（補助133号）開通

昭和38年　通学路標識設置

昭和41年　交通安全こども大会

杉並区内のバス路線に、渋66系統が運行されています。この路線は阿佐ヶ谷駅と渋谷駅の12キロあまりを結ぶもので、30以上の停留所が設置されています。バス好きにはたまらない路線として知られています。もちろん、地域住民の生活には欠かせない路線となっています。

この路線よりはるかに距離の長いバス路線が、かつては走っていました。それは、都営バス301系統で、昭和24年から荻窪駅と青梅車庫間で運行されていました。昭和35年から59年までは、阿佐ヶ谷駅から青梅車庫の39キロメートルを3時間あまりで運行していました。現在は梅70系統として、西武新宿線柳沢駅と青梅車庫に引き継がれています。

昭和41年　交通安全教室

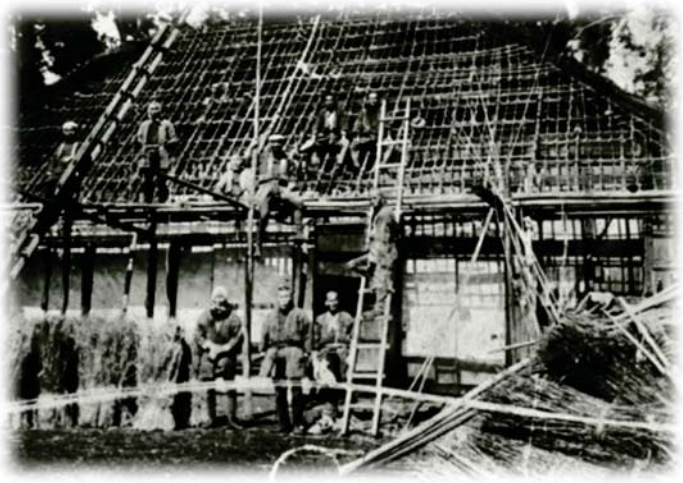
平成24年　すぎ丸バス（天王橋）

杉並区内のバス路線は、約60路線が運行されています。平成12年11月からは、コミュニティバス「すぎ丸」が運行を開始しました。現在までに、阿佐ヶ谷駅と浜田山駅、浜田山駅と下高井戸駅、久我山駅と西荻窪駅を結ぶ3路線が区民の身近な交通手段として、利用されています。

昭和39年　区役所と青梅街道

まちのようすと人々のくらし②

杉並区は、江戸時代から大正時代までは、江戸近郊の純農村地帯でしたが、関東大震災を境に日本の近代化の中で、ベッドタウンとして姿を変えてきました。



昭和7年　わらぶき屋根の
葺き替え（今川3丁目）

昭和10年　杉並木（現：高井戸東3丁目）

街並みの変遷

野菜と雑穀などの農村地であった杉並に、明治44年、原蚕種製造所（後の蚕糸試験場）が設立され、その後も救世軍杉並療養所や中島飛行機東京工場の開設が続くなど、徐々に「むら」から「まち」へと変貌していきました。

大正12年の関東大震災後に都心の被災者が郊外に移り住んできたことをきっかけに、杉並区でも急速に住宅化が進み、それに伴って人々の生活を支える商店が集積していきました。戦後には100以上の商店会が誕生するなど、商業は区内産業の中心として発展を遂げていきます。

大正13年　区画整理中の上荻窪

昭和16年　神田川の堰（永福1丁目）

大正13年　上荻一本松通り（現：西荻北3丁目）

昭和4年　生産物即売所
（桃井第一小学校校庭）

昭和27年　牛の放牧
（高南中学校付近）

昭和35年　田植え風景
（浜田山1丁目）

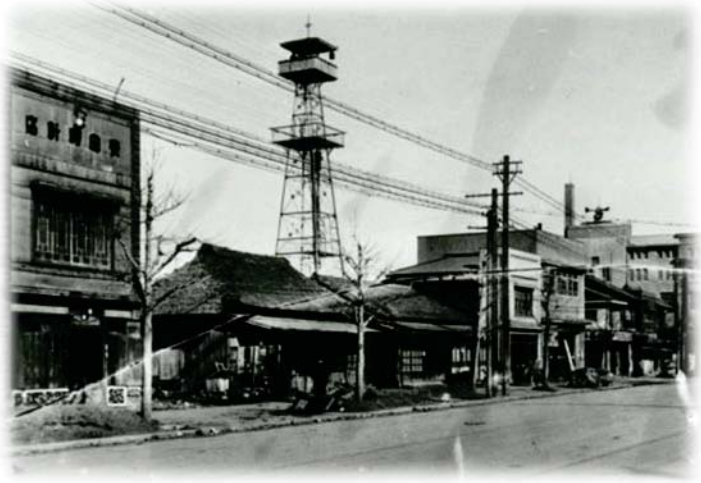
54万人の住宅都市となった現在でも農地約50ヘクタールを残し、トマト、なす等の露地野菜を中心に農業が営まれています。これら区内農産物は、農家の直販所で販売されるほか、区内学校の給食へ提供されています。

また、農地は公園や屋敷林とともに都市の貴重な緑地として、さらには災害時のオープンスペースや体験農業などによる土とのふれあいの場として、その多面的な機能が期待されています。

昭和53年　生産緑地地区

昭和初期　西荻窪南口商店街

昭和17年　高円寺駅北口付近



昭和19年　荻窪消防署付近

昭和19年　荻窪駅北口付近

昭和28年　区役所屋上
からの区内展望

昭和37年　荻窪団地

昭和37年　文化住宅

平成24年　区役所屋上からの区内展望

昭和39年　川底の泥さらい

杉並区の人口は、大正9年当時は2万人にも満たなかったのですが、大正12年の関東大震災以降、都心部から多くの市民が郊外の空閑地を求めたため、昭和17年には26万人を超え、一時戦争による疎開などが原因となって減少したときもありましたが、戦後の復興と高度経済成長で昭和38年には50万人台に到達しました。

昭和41年　清掃活動

昭和41年　町名案内板設置

昭和47年　荻窪駅北口再開発

昭和50年　旧蚕糸試験場（現：蚕糸の森公園）

昭和20年代にアメリカから上陸した「アメリカシロヒトリ」の蛾の幼虫が区内で発生し、樹木を食い荒らしました。また、戦後復興のベビーブームなどで人口が急増し、河川の汚染や害虫の大量発生などの新たな問題が起きました。

昭和28年7月25日 杉並区広報

アメリカシロヒトリ 西高校に發生

プラタナス、櫻等七十本に被害

區議會の動き

外國人の皆さん！

引續き日本在留には許可がいります

昭和28年7月25日発行の広報紙では「久我山の西高等学校に発生したアメリカシロヒトリはプラタナス、桜に約70本の被害を与えたので直ちに防除につとめた結果、被害を最小限に食い止めた」と記されています。

昭和30年　荻窪3丁目

「カとハエをなくす区民運動」

昭和30年　アメリカシロヒトリ駆除

昭和44年　アメリカシロヒトリの退治

昭和38年　立て看板設置（ごみを捨てるな）

ハエと力をなくそう

今年こそは皆んなで力をあわせてカとハエの撲滅に努力しましょう

杉並区役所　昭和37年6月28日

＜杉並区広報　昭和37年6月28日掲載＞

人口の増加や生活水準の向上に伴うごみや生活排水の増加などで、蚊やハエが多く発生し、蚊とハエをなくす取り組みが多く掲載されています。

平成24年　善福寺川の桜

まちのようすと人々のくらし③

太平洋戦争の勃発、そして敗戦、その後の高度成長によって、人々の暮らしぶりも大きく変わりました。農業中心の暮らしから産業の発展によって、新たな文化も生まれました。

昭和16年　東京都杉並区第2回隣組大会

昭和16年　応召風景（青梅街道を荻窪へ）

戦争と人々のくらし

戦争が激化し、杉並区からも多くの方が戦地に赴きました。残された女性や子どもたちも、軍事訓練を重ねるなど、戦争の中で日々の生活を送りました。

また、平時の自治協力組織として自然発生的に結成されてきた町会は、戦時体制への協力実践の末端組織としての役割を負わされるようになりました。小学校は、国民学校と改称され、食料は慢性的に不足していました。昭和19年8月には、長野県・宮城県への集団疎開が行われました。

昭和17年　校庭での白兵戦（模擬戦争）

昭和17年　軍事訓練

昭和18年　タンカ訓練のようす（桃井第一小）

昭和19年　学童疎開（別所温泉）

戦後　DDTの消毒

昭和20年　阿佐ヶ谷駅前の強制疎開

杉並區政ニュース

昭和24年2月11日、区役所発行の「杉並区政ニュース」では、高木敏雄区長名で、余裕住宅の貸付に関するお願いの記事を掲載しています。

この記事によると、区内で狭い部屋に2世帯、3世帯で雑居生活をしている人やバラック生活をしているなど、住宅に困窮している世帯が区内で5,000世帯を数えているため、余裕のある住宅の一部を貸してほしいという内容になっています。

	区の主な出来事	社会の主な出来事
昭和8年（1933）	防護団（防空のための住民組織）創設、区内全域に町内会結成	国際連盟脱退
昭和9年（1934）	婦人会発足	ワシントン海軍軍縮条約の廃棄を米国に通告
昭和10年（1935）	国勢調査実施(人口190,217人)	満州国特別移民団ハルピンへ出発
昭和11年（1936）		二・二六事件、日独防共協定締結
昭和12年（1937）	国民精神総動員実行委員会開催	日ソ両軍衝突、盧溝橋事件（日華事変）日中戦争ぼっ発、日本軍南京占領（南京虐殺事件）
昭和13年（1938）	灯火管制実施通知	日本軍漢口占領
昭和14年（1939）		米国日米通商条約廃棄を通告、ドイツ軍ポーランドに侵攻
昭和15年（1940）		日独伊三国同盟締結、大政翼賛会発足、日満華共同宣言調印、国民服制定
昭和16年（1941）	小学校26校を国民学校と改称、町会が戦時下の区政運営の重要機関となる	日ソ中立条約締結、太平洋戦争ぼっ発、米・英に宣戦布告、日独伊三国協定締結
昭和17年（1942）		日独伊新軍事協定締結、日本軍ビルマなどを占領、米軍機の東京初空襲、ミッドウェー海戦で日本軍大敗北、大本営ガダルカナル撤退を決定
昭和18年（1943）	区民に鉄、銅の供出を呼びかけ、区内各校で食糧自給のため学校園開園	イタリア降伏、アッツ島などの日本軍全滅、第一回学徒出陣
昭和19年（1944）	学童給食開始（栄養不足対策）、学童の縁故疎開・集団疎開、区内初の空襲（井草地区）、区議会議員選挙を延期、高井戸第四国民学校が空襲で全焼	東京・名古屋に疎開命令、女子挺身隊結成、日本軍インドに侵攻、B29の空襲が始まる、サイパン・グアム・ビルマなどの日本軍全滅、神風特攻隊初出撃、B29による東京大空襲、建物の強制疎開開始
昭和20年（1945）	空襲により甚大な被害、杉並第三・杉並第六・杉並第十・西田・新泉・堀之内・和田・方南国民学校が全焼、近衛文麿荻外荘で自決	東京空襲、米英ソ三国首脳ヤルタ会議、学校授業停止、硫黄島の日本軍全滅、ドイツ無条件降伏、沖縄守備隊全滅、広島・長崎に原爆投下、ソ連対日宣戦布告、ポツダム宣言受諾、太平洋戦争終戦、GHQによる陸海軍解体命令、集団疎開児童の帰京開始
昭和21年（1946）	区長公選制・区会に条例制定権付与、小学校の学校給食開始	天皇神格化否定の詔書（人間宣言）
昭和22年～（1947～）	第一回統一地方選挙、区立中学校20校開校（22年）、小学校でパン給食完全実施（25年）	全国孤児一斉調査、軍事裁判で東条元首相ら7人の死刑決定、A級戦犯釈放（23年）、NATO同盟条約調印（24年）、対日講和条約調印、日米安全保障条約調印（26年）GHQ廃止、対日講和条約・日米安全保障条約発効（27年）

まちのようすと人々のくらし④

お正月や地域の祭り、結婚式、入学式、卒業式、成人式、運動会などいつもとは違う特別な日を大切にしてきました。また、普段の生活の中にも、様々な工夫を行って楽しみを見つけてきました。

昭和21年　嫁入り風景(五日市街道)

男子禁制！荻窪白山神社女みこし
＜広報すぎなみ　昭和58年10月5日掲載＞

特別な日

特別な日をあらわす言葉に、「ハレの日」があります。普段の生活をあらわす「ケ」に対して、結婚式などの冠婚葬祭や年中行事、お祭りなどが行われる特別な日を、「ハレ（晴れ）の日」と呼んでいます。

「ハレの日」には、普段とは違った晴れ着を身につけたり、おせち料理などの特別な料理を作ったりして、神様やご先祖様に寄り添って、家族、近所の人々と過しました。いつもと違うこんな日の少し緊張した姿が、写真に収められています。

杉並区政ニュース　第29號（火曜日）

紙上窓口

結婚季節とその手引

合意のみとはいうものの枠があり

新法も変らないのは六ケ月

世の中はままにならない妻の氏

新婚に家はなくとも新戸籍

「火山教室」徒行記

昭和24年11月１日発行の杉並区政ニュースでは、結婚季節とその手引きと題した記事が載っています。

昭和22年の民法の改正により「家制度」が廃止され、現在のように戸籍も夫婦単位となりました。

杉並会館第１号の披露宴の風景
＜杉並区広報　昭和56年9月20日掲載＞

杉並区広報

10年目にゴールイン

結婚相談所20周年

昭和46年9月20日発行の杉並区広報では、区の結婚相談所が、誕生から20年を迎えました記事が掲載されています。

開設から20年間で、延べ83,000人の相談を受け、783組のカップルを送り出しました。

今日からうれしい一年生
＜杉並区広報　昭和50年4月20日掲載＞

成人祝賀のつどい
＜杉並区広報　昭和56年2月5日掲載＞

地域によっては一時中断されていたお囃子ですが、例祭の年中行事として保存会の人々によって昔ながらの笛や太鼓の響きがにぎやかに蘇りました。
区内の祭囃子には、大宮前囃子（春日神社）、阿佐谷囃子（天祖神社）、井草囃子（井草八幡宮）、高井戸囃子（天神社）があります。

井草八幡宮流鏑馬(やぶさめ)
＜杉並区広報　昭和47年10月20日掲載＞

昭和30年頃
出初式（西荻窪駅付近）

昭和27年11月25日発行の杉並区広報には、明治初年から阿佐ヶ谷鎮守の祭礼の時に奉納していた祭ばやしや里神楽の記事が掲載されています。大震災、戦争と一時中断しましたが、昭和23年復活しました。
現在は、阿佐ヶ谷囃子保存会で続けられています。

昭和34年　出初式（区役所前）

火災予防凧揚げ大会（上井草球場）
＜杉並区広報　昭和34年1月25日掲載＞

昭和24年8月1日発行の杉並区ニュースに、動く図書館についての記事が掲載されています。
休みになるとアメリカの図書やマンガ、小説等、種類も豊富な本を乗せて、神社や寺院の涼しい木陰に動く図書館がやってきて、子供たちの人気を集めていました。

昭和38年　フォークダンスを楽しむ若者の集い

昭和33年7月25日発行の杉並区広報には、釣り場のある児童遊園　として、よみがえった妙正寺池の記事が掲載されています。
湧水の池として有名な妙正寺池が、戦後、荒れてしまいましたが、青少年のレクリェーションと余暇善導をはかるため、　整備し鯉を1,000匹放流しました。近くの出張所に釣竿を備え、貸出をしていました。
＜杉並区広報　昭和33年7月25日掲載＞

昭和30年頃　映画館(西荻窪駅付近)

＜杉並新聞（上映予告）
昭和２３年９月２４日掲載＞

プール開き（関根文化公園プール）
＜杉並区広報　昭和３２年６月２５日掲載＞

冬至の日「ゆず湯」が復活
＜杉並区広報　昭和55年1月20日掲載＞

映画は、娯楽の中心でした。昭和32年の全国の映画館の数は、6,675館でした。当時は本編の前に、ニュース映画の上映がありました。テレビ放送は昭和28年に始まりましたが、受像機は高く、まだ一部の人達しか見る事が出来ませんでした。テレビの普及と共に、娯楽の中心は映画からテレビに移っていきました。
銭湯は、昭和30年代半ばまで、庶民の情報交換や社交の場でした。また、男性には床屋、女性には長屋の井戸端会議という強力な場もありました。